

## II 調査結果

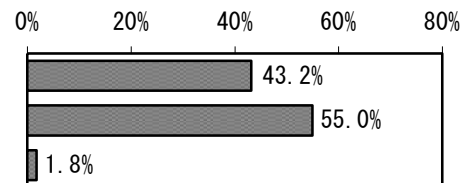
## Ⅱ 調査結果

### 1 回答者の属性

調査結果の分析の前に、回答が得られた1,514人の属性をみると以下のとおりである。

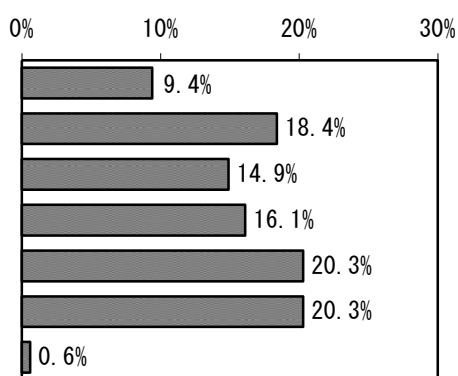
#### (1) 性別

	基数	構成比
1. 男	654	43.2%
2. 女	833	55.0%
(無回答)	27	1.8%
全体	1,514	100.0%



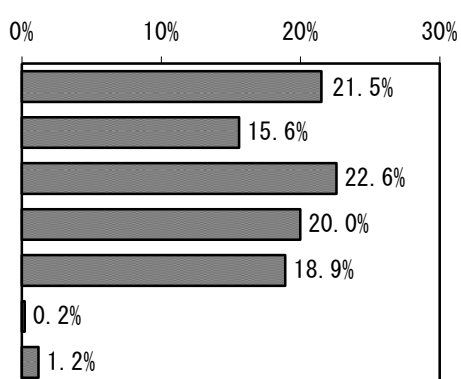
#### (2) 年齢

	基数	構成比
1. 20代	143	9.4%
2. 30代	278	18.4%
3. 40代	225	14.9%
4. 50代	244	16.1%
5. 60代	308	20.3%
6. 70歳以上	307	20.3%
(無回答)	9	0.6%
全体	1,514	100.0%



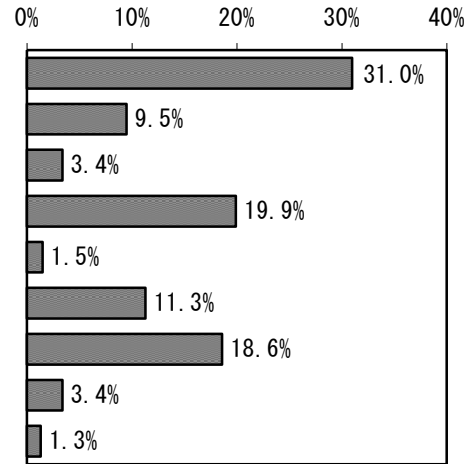
#### (3) 居住地域

	基数	構成比
1. 板橋地域	326	21.5%
2. 常盤台地域	236	15.6%
3. 志村地域	342	22.6%
4. 赤塚地域	303	20.0%
5. 高島平地域	286	18.9%
6. わからない	3	0.2%
(無回答)	18	1.2%
全体	1,514	100.0%



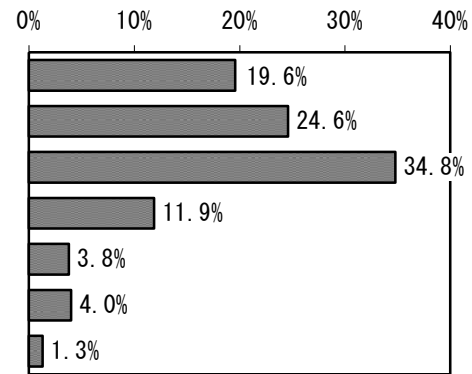
(4) 職業

	基数	構成比
1. 会社員・公務員	470	31.0%
2. 自営業・自由業	144	9.5%
3. 会社役員	52	3.4%
4. 主婦	301	19.9%
5. 学生	23	1.5%
6. アルバイト・パート	171	11.3%
7. 無職	282	18.6%
8. その他	52	3.4%
(無回答)	19	1.3%
全体	1,514	100.0%



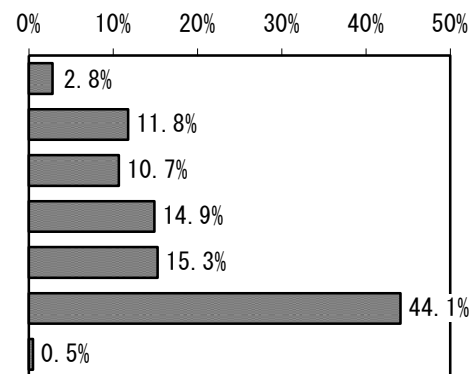
(5) 家族構成

	基数	構成比
1. 単身世帯	297	19.6%
2. 夫婦のみ	373	24.6%
3. 二世帯同居 (子と同居)	527	34.8%
4. 二世帯同居 (親と同居)	180	11.9%
5. 三世帯同居	57	3.8%
6. その他	60	4.0%
(無回答)	20	1.3%
全体	1,514	100.0%



(6) 居住年数

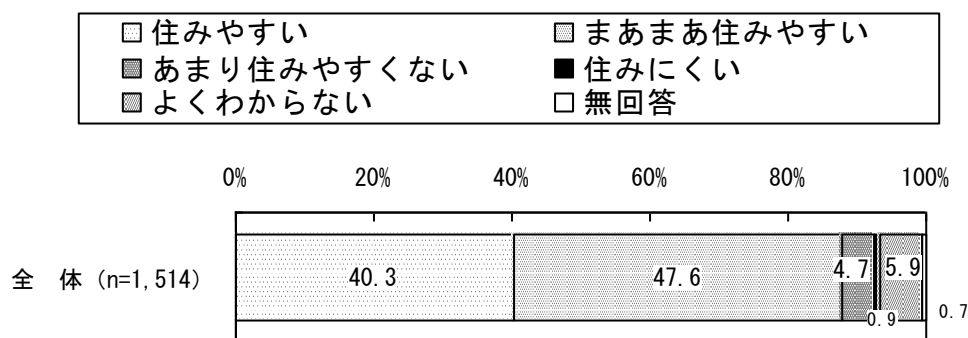
	基数	構成比
1. 1年未満	43	2.8%
2. 1年以上5年未満	178	11.8%
3. 5年以上10年未満	162	10.7%
4. 10年以上20年未満	225	14.9%
5. 20年以上30年未満	231	15.3%
6. 30年以上	667	44.1%
(無回答)	8	0.5%
全体	1,514	100.0%



## 2 住みやすさの評価

板橋区の住みやすさについて尋ねたところ、「まあまあ住みやすい」が 47.6%、「住みやすい」が 40.3%となっており、回答者の 8 割以上は板橋区の住みやすさについて肯定的な意見となっている。  
(図Ⅱ－1)

図Ⅱ－1 住みやすさの評価

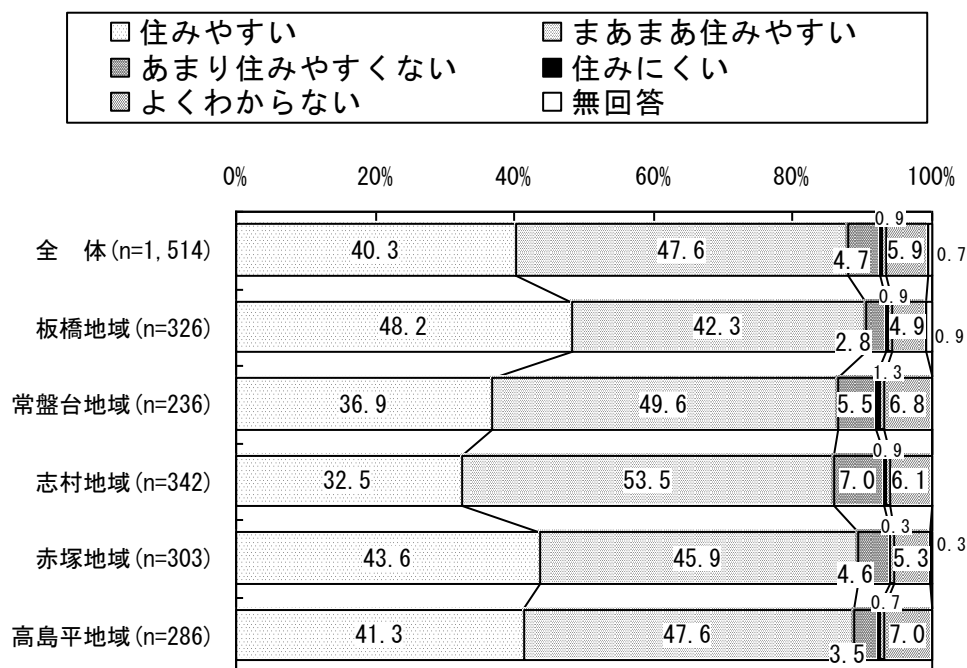


### (1) 住みやすさと属性との関連

#### ① 地域別

住みやすさを地域別にみると、「住みやすい」は板橋地域が 48.2%で最も比率が高くなっている。「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合計した値でも、板橋地域が 90.5%で最も比率が高く、9割以上となっている。(図Ⅱ－2)

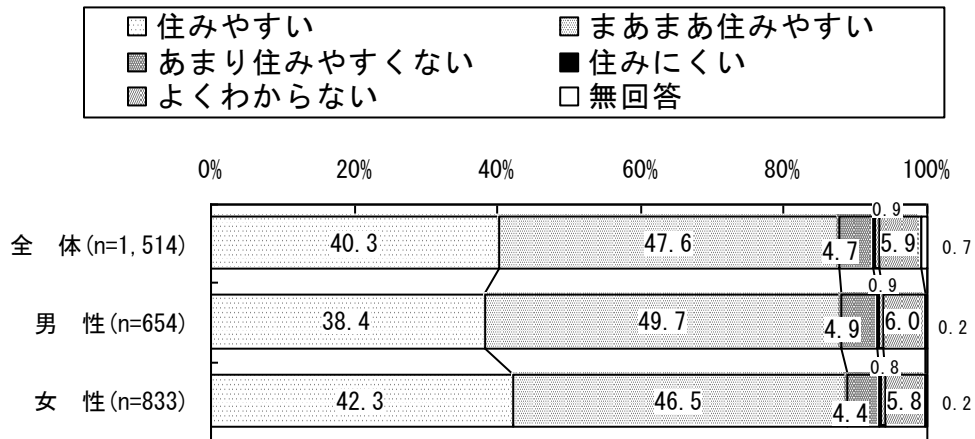
図Ⅱ－2 地域別 住みやすさの評価



② 性別

住みやすさを性別にみると、「住みやすい」は女性（42.3%）が男性（38.4%）より 3.9 ポイント高くなっている。（図Ⅱ－3）

図Ⅱ－3 性別 住みやすさの評価

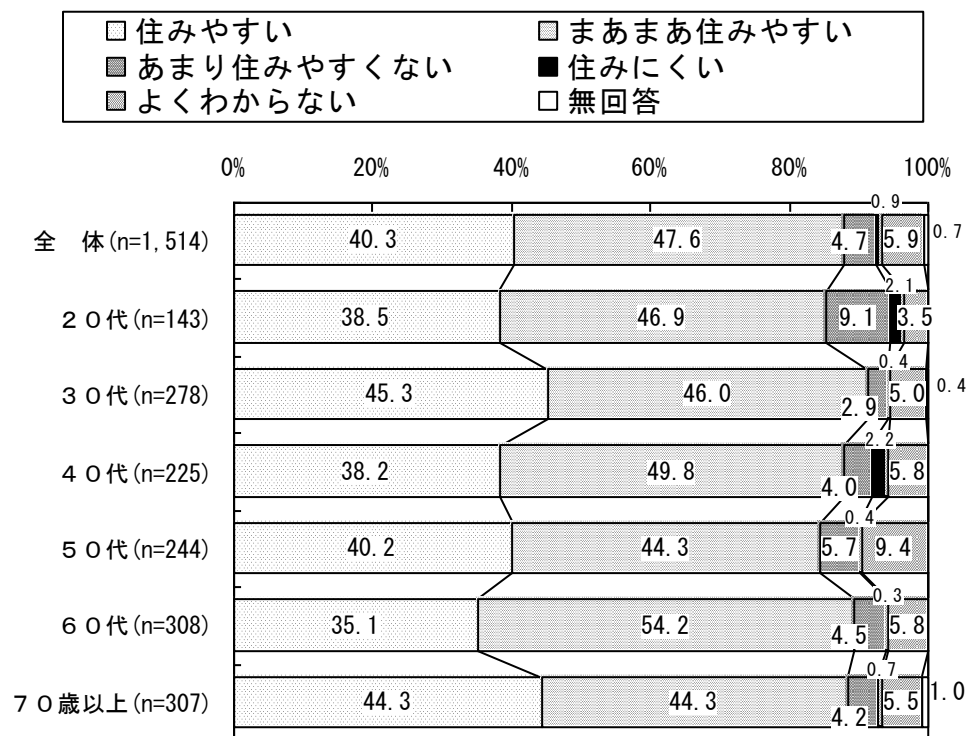


③ 年齢別

住みやすさを年齢別にみると、「住みやすい」は30代が45.3%で最も比率が高く、次いで70歳以上（44.3%）となっている。60代ではその比率が35.1%と低くなっている。

一方、「住みにくい」、「あまり住みやすくない」を合計した値では、20代が11.2%で最も高くなっている。（図Ⅱ－4）

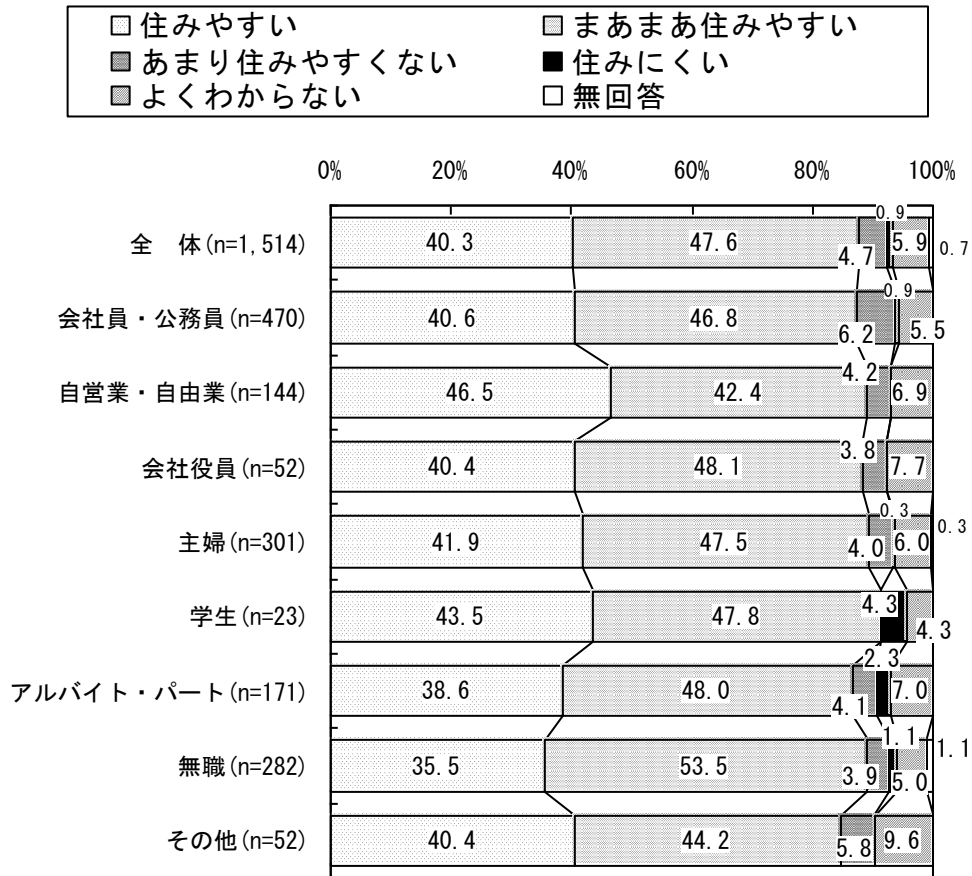
図Ⅱ－4 年齢別 住みやすさの評価



④ 職業別

住みやすさを職業別にみると、「住みやすい」は自営業・自由業が46.5%で最も比率が高く、以下、学生(43.5%)、主婦(41.9%)が4割台で続いているが、アルバイト・パート(38.6%)、無職(35.5%)ではその比率が3割台と低くなっている。(図Ⅱ-5)

図Ⅱ-5 職業別 住みやすさの評価



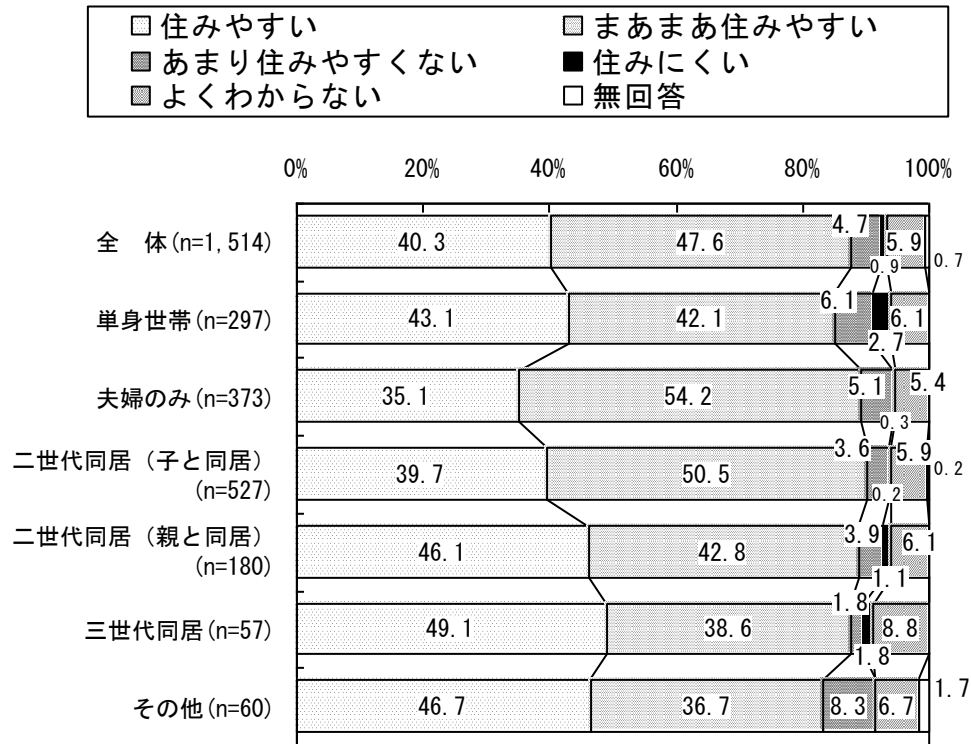
⑤ 家族構成別

住みやすさを家族構成別にみると、「住みやすい」は三世代同居が 49.1%で最も比率が高くなっている。

「住みやすい」、「まあまあ住みやすい」を合計した値でみると、二世代同居（子と同居）が 90.2%、夫婦のみが 89.3%で比率が高くなっている。

一方、「住みにくい」、「まあまあ住みにくい」を合計した値では、単身世帯が 8.8%と高くなっている。（図Ⅱ－6）

図Ⅱ－6 家族構成別 住みやすさの評価

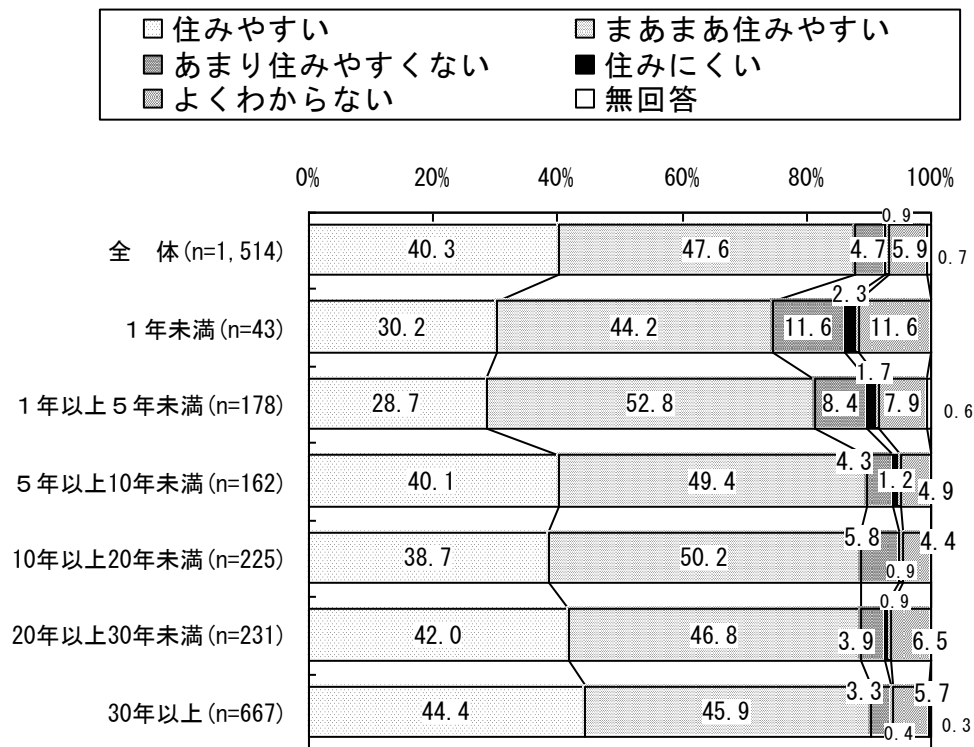


⑥ 居住年数別

住みやすさを居住年数別にみると、「住みやすい」は30年以上(44.4%)、20年以上30年未満(42.0%)、5年以上10年未満(40.1%)で比率が高く、4割以上となっている。1年以上5年未満ではその比率が28.7%と低くなっている。

「住みやすい」、「まあまあ住みやすい」を合計した値でも、30年以上(90.3%)など居住年数が長いとその比率も高くなっている。(図Ⅱ-7)

図Ⅱ-7 居住年数別 住みやすさの評価

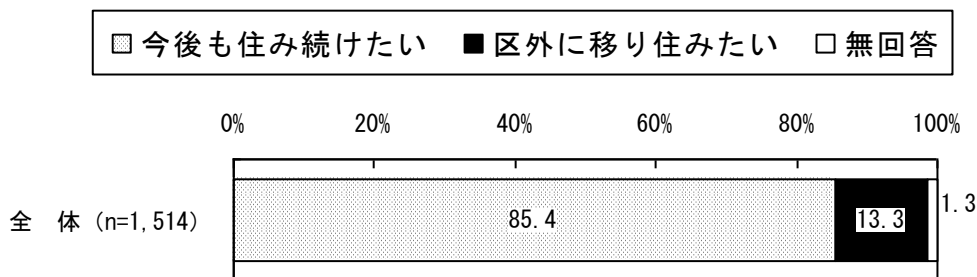




### 3 定住意向

板橋区に住み続けたいかどうか尋ねたところ、回答者の8割以上が「今後も住み続けたい」(85.4%)と回答している。(図Ⅱ-8)

図Ⅱ-8 板橋区での定住意向

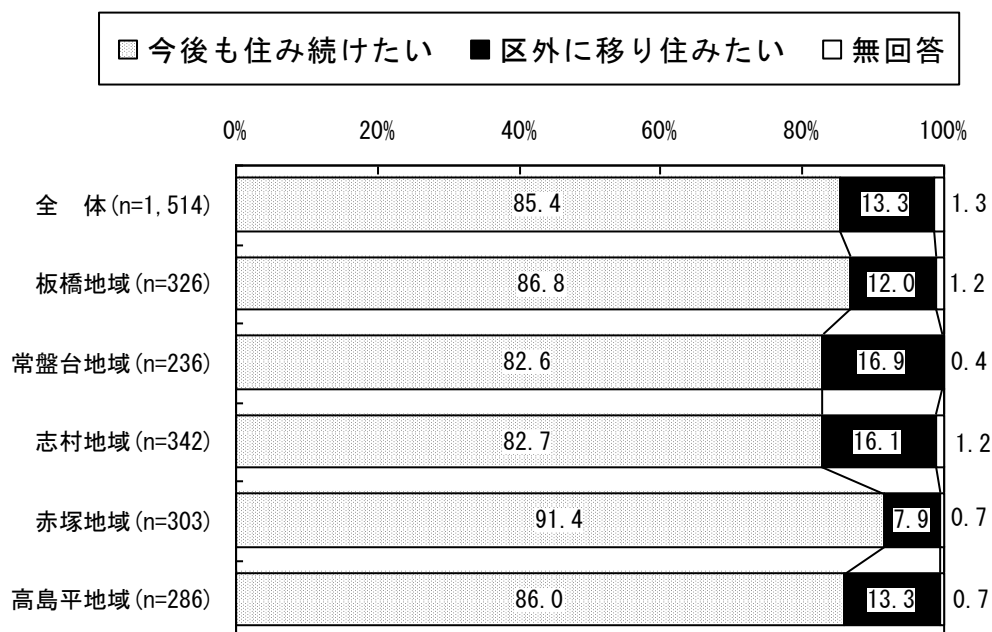


#### (1) 定住意向と属性との関連

##### ① 地域別

定住意向を地域別にみると、「今後も住み続けたい」は赤塚地域が91.4%で最も比率が高く、以下、板橋地域(86.8%)、高島平地域(86.0%)と続いている。(図Ⅱ-9)

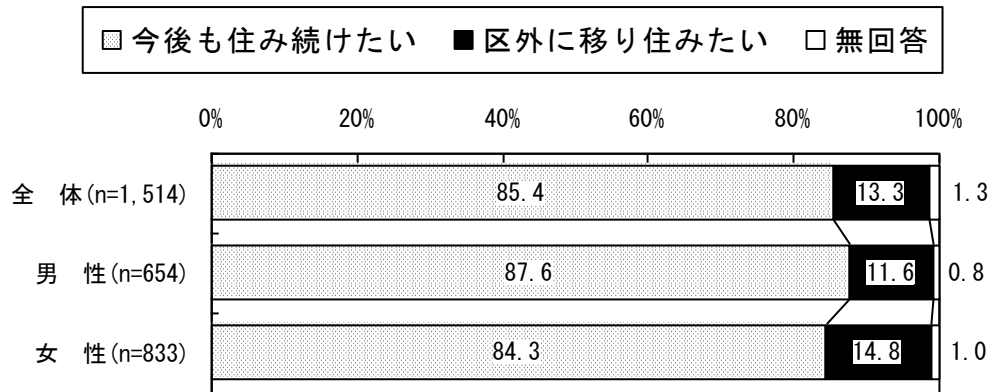
図Ⅱ-9 地域別 板橋区での定住意向



② 性別

定住意向を性別にみると、「今後も住み続けたい」は男性（87.6%）が女性（84.3%）より 3.3 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-10）

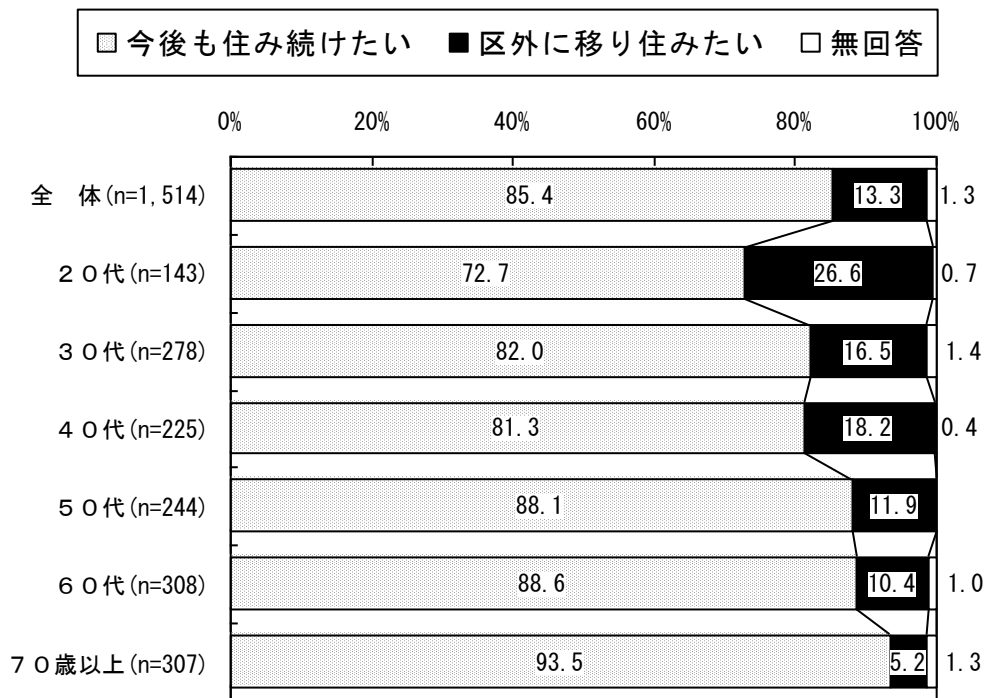
図Ⅱ-10 性別 板橋区での定住意向



③ 年齢別

定住意向を年齢別にみると、「今後も住み続けたい」は70歳以上が93.5%で最も比率が高く、以下、60代（88.6%）、50代（88.1%）と続き、年代が低くなるとその比率も減少傾向となっている。（図Ⅱ-11）

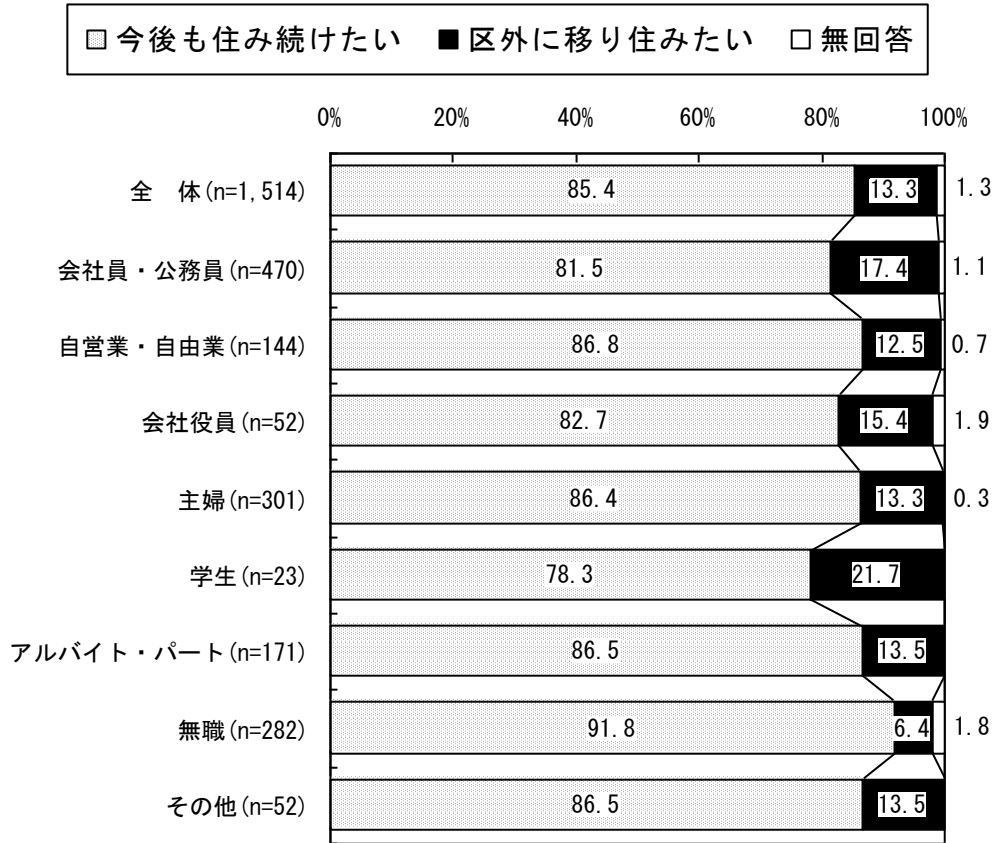
図Ⅱ-11 年齢別 板橋区での定住意向



④ 職業別

定住意向を職業別にみると、「今後も住み続けたい」は無職が 91.8%で最も比率が高く、学生は 78.3%で最も比率が低くなっている。(図Ⅱ-12)

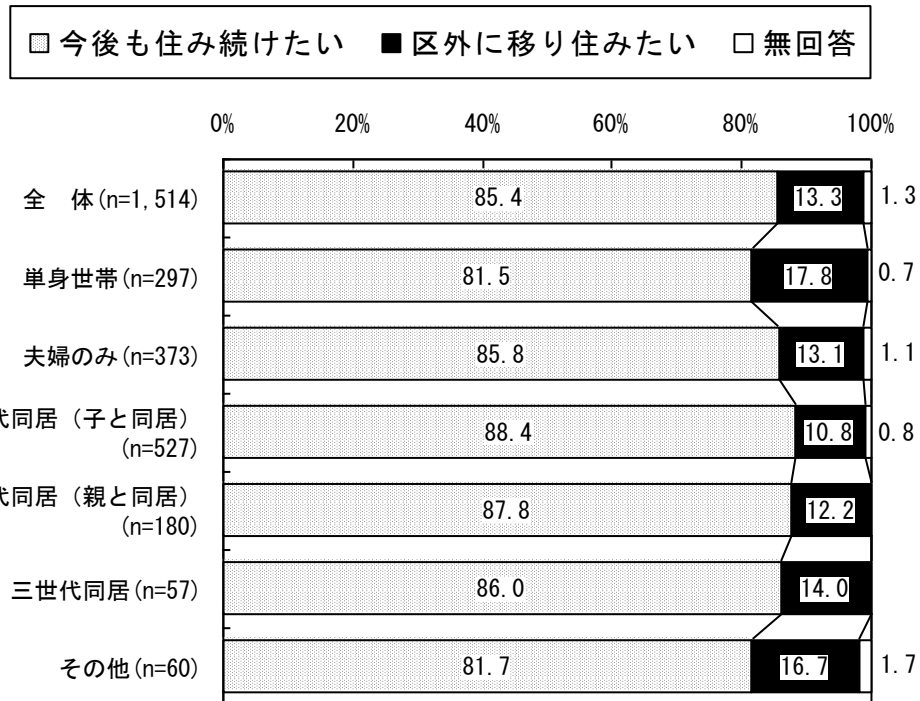
図Ⅱ-12 職業別 板橋区での定住意向



⑤ 家族構成別

定住意向を家族構成別にみると、「今後も住み続けたい」は、二世帯同居（子と同居）が 88.4%、二世帯同居（親と同居）が 87.8%で比率が高くなっている。（図Ⅱ-13）

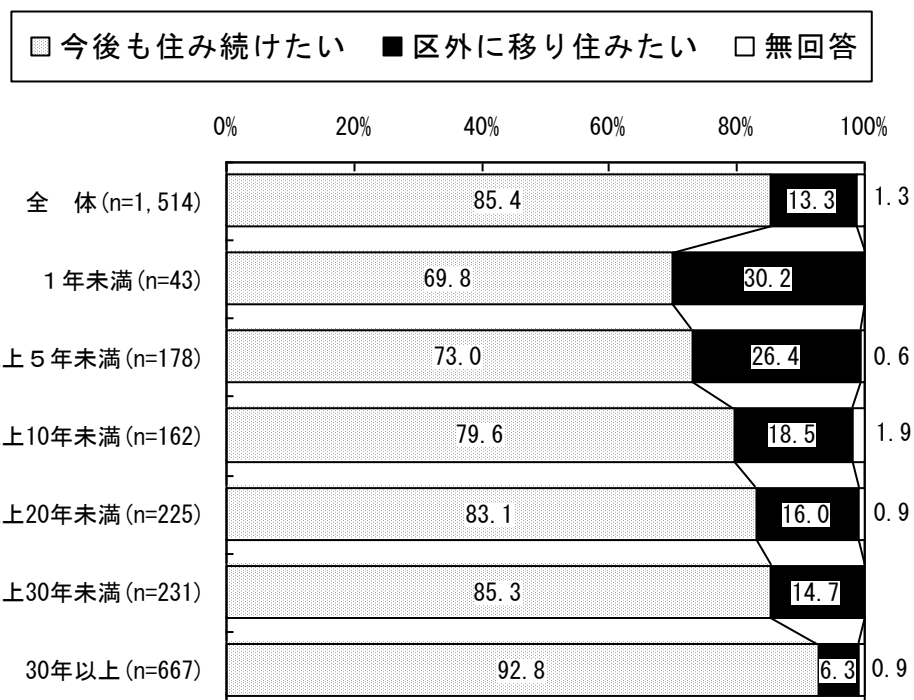
図Ⅱ-13 家族構成別 板橋区での定住意向



⑥ 居住年数別

定住意向を居住年数別にみると、「今後も住み続けたい」は 30 年以上が 92.8%で最も比率が高く、以下、20 年以上 30 年未満 (85.3%)、10 年以上 20 年未満 (83.1%) と続き、居住年数が短くなると、その比率も減少している。（図Ⅱ-14）

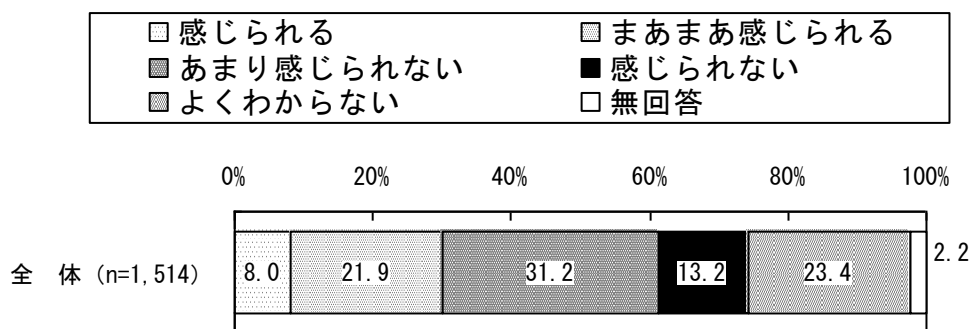
図Ⅱ-14 居住年数別 板橋区での定住意向



## 4 税金に見合った行政サービス

日頃の行政サービスについて、税金に見合ったサービスが受けられているかどうかについて尋ねたところ、「感じられる」(8.0%)、「まあまあ感じられる」(21.9%)を合計した『税金に見合った行政サービスが受けられている』比率は29.9%で、一方、「あまり感じられない」(31.2%)、「感じられない」(13.2%)を合計した『税金に見合った行政サービスが受けられていない』比率は44.4%となっている。(図Ⅱ-15)

図Ⅱ-15 税金に見合った行政サービスの受益



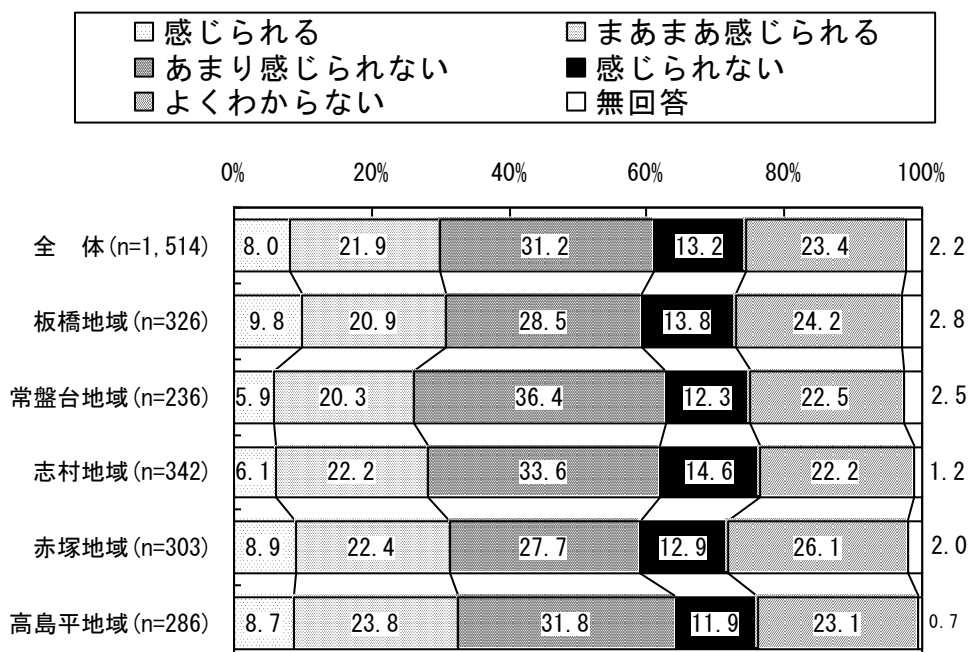
### (1) 税金に見合った行政サービスの受益と属性との関連

#### ① 地域別

税金に見合った行政サービスの受益を地域別にみると、「感じられる」、「まあまあ感じられる」を合計した値では、高島平地域(32.5%)、赤塚地域(31.3%)、板橋地域(30.7%)で比率が高く、3割以上となっている。

一方、「感じられない」、「あまり感じられない」を合計した値は、常盤台地域(48.7%)、志村地域(48.2%)で比率が高くなっている。(図Ⅱ-16)

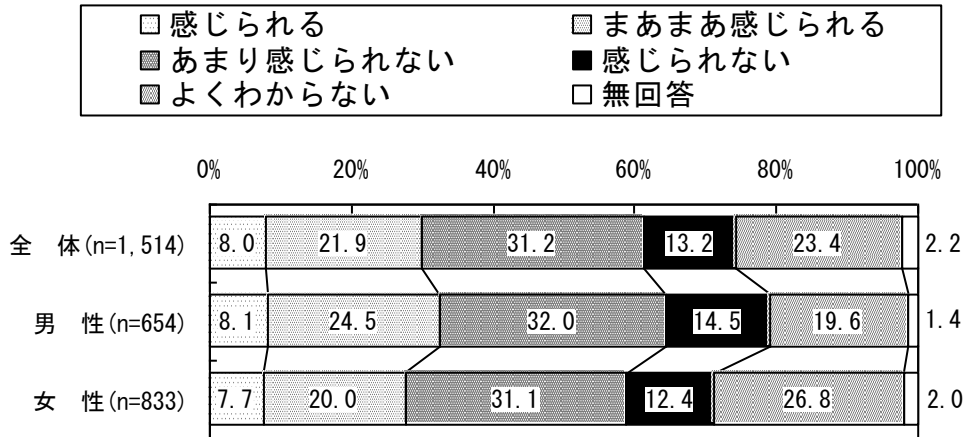
図Ⅱ-16 地域別 税金に見合った行政サービスの受益



② 性別

税金に見合った行政サービスの受益を性別にみると、「感じられる」、「まあまあ感じられる」を合計した値は、男性（32.6%）が女性（27.7%）より4.9ポイント高くなっている。（図Ⅱ-17）

図Ⅱ-17 性別 税金に見合った行政サービスの受益

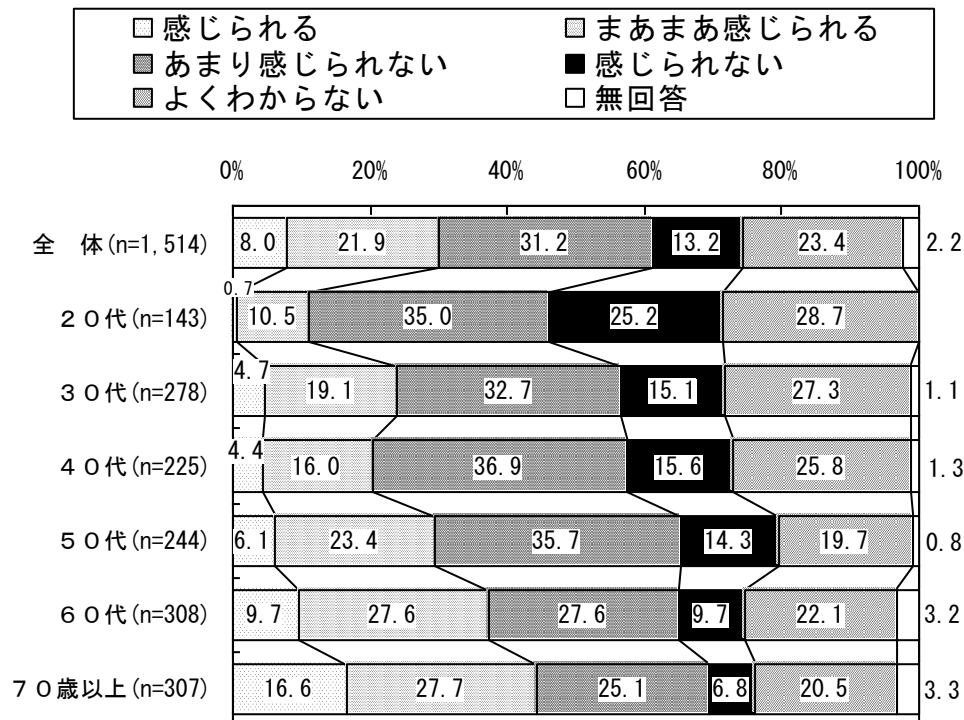


③ 年齢別

税金に見合った行政サービスの受益を年齢別にみると、「感じられる」、「まあまあ感じられる」を合計した値は、70歳以上が44.3%で最も比率が高く、以下60代（37.3%）、50代（29.5%）と続き、年齢が低くなるにつれ、その比率も減少傾向となっている。

一方、「感じられない」、「あまり感じられない」は20代が60.2%で最も比率が高くなっている。（図Ⅱ-18）

図Ⅱ-18 年齢別 税金に見合った行政サービスの受益

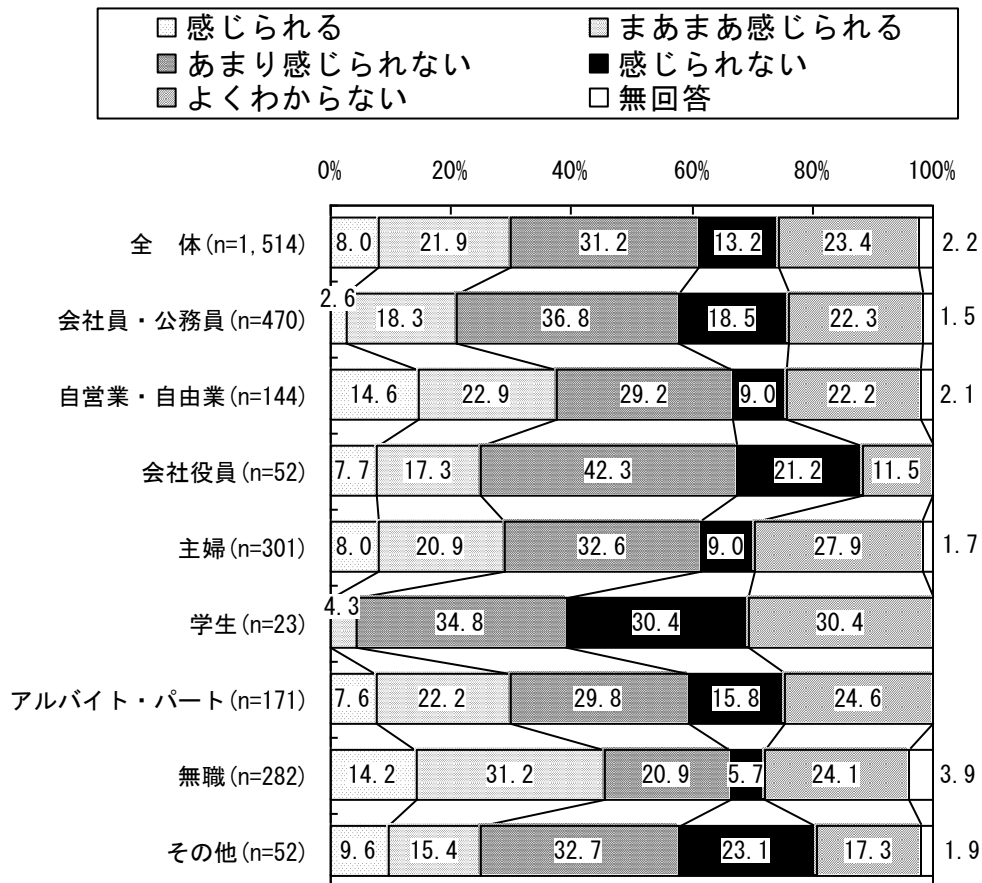


④ 職業別

税金に見合った行政サービスの受益を職業別にみると、「感じられる」、「まあまあ感じられる」を合計した値は、無職が45.4%で最も比率が高く、学生は4.3%で最も低くなっている。

一方、「感じられない」、「あまり感じられない」を合計した値は、学生が65.2%、会社役員が63.5%で比率が高く、6割以上となっている。(図Ⅱ-19)

図Ⅱ-19 職業別 税金に見合った行政サービスの受益

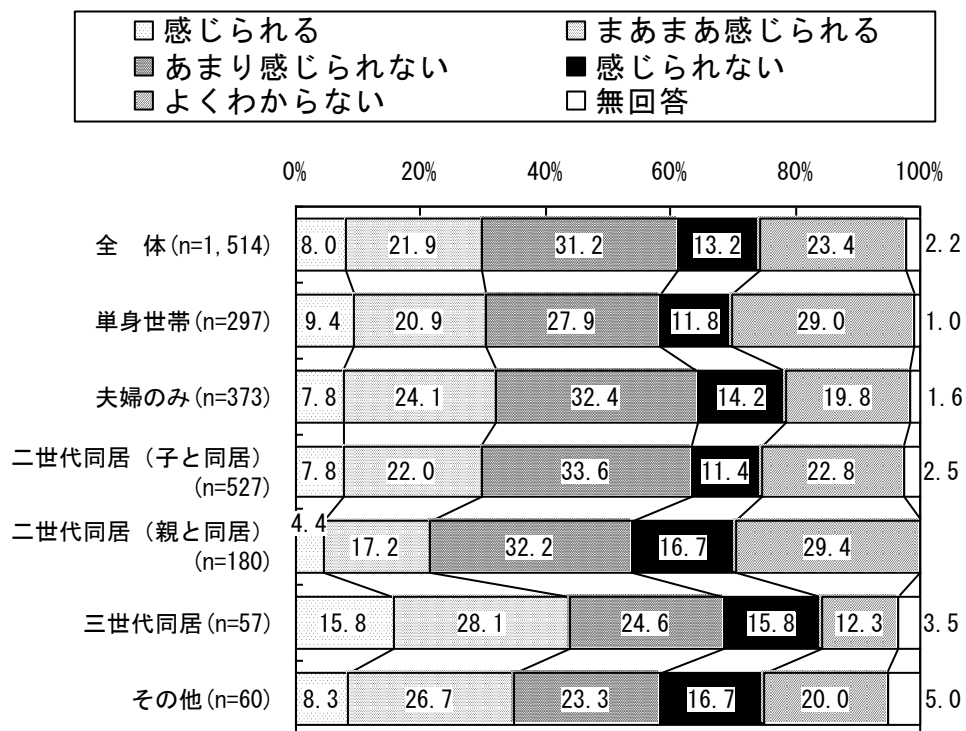


⑤ 家族構成別

税金に見合った行政サービスの受益を家族構成別にみると、「感じられる」、「まあまあ感じられる」を合計した値は、三世代同居が43.9%で最も比率が高くなっている。

一方、「感じられない」、「あまり感じられない」は二世代同居（親と同居）が48.9%で最も比率が高く、以下、夫婦のみ（46.6%）、二世代同居（子と同居）（45.0%）と続いている。（図Ⅱ-20）

図Ⅱ-20 家族構成別 税金に見合った行政サービスの受益

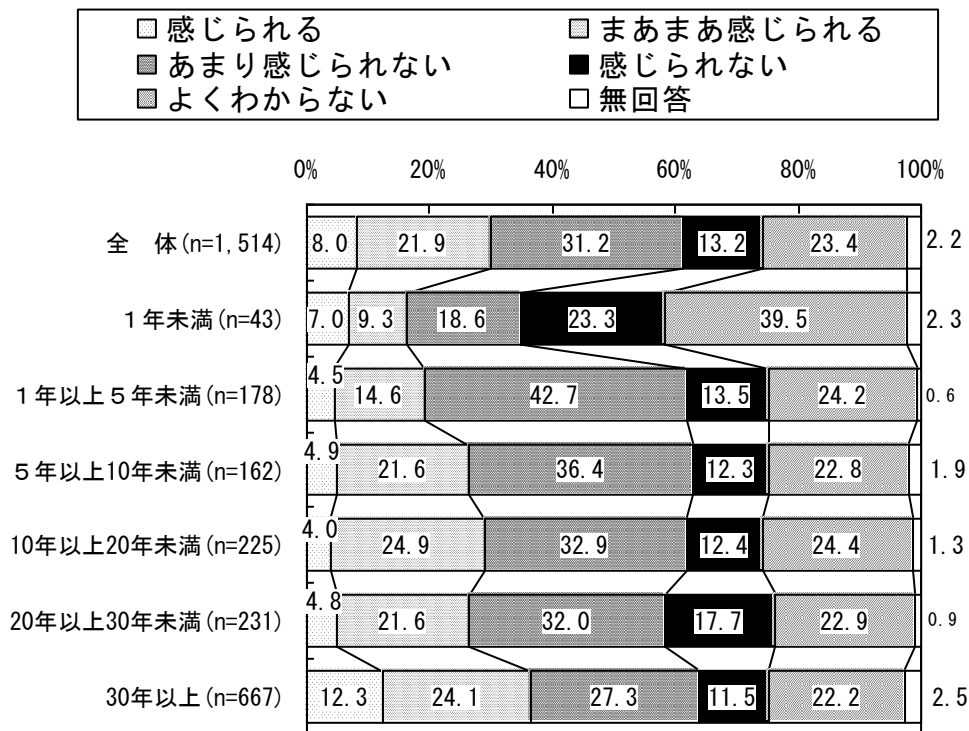




⑥ 居住年数別

税金に見合った行政サービスの受益を居住年数別にみると、「感じられる」、「まあまあ感じられる」を合計した値は、30年以上が36.4%で最も比率が高く、次いで、10年以上20年未満(28.9%)となっている。(図Ⅱ-21)

図Ⅱ-21 居住年数別 税金に見合った行政サービスの受益



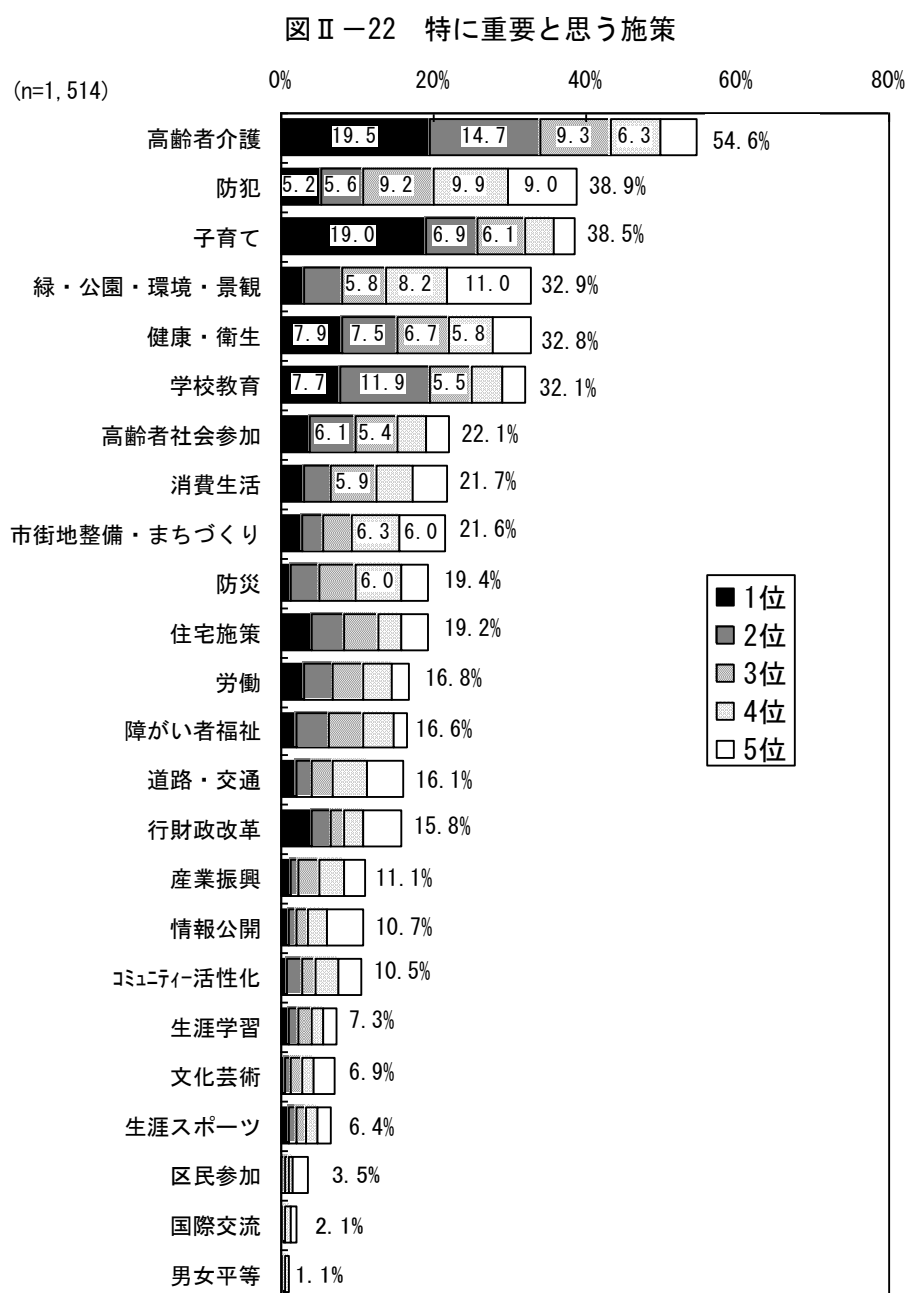
## 5 特に重要と思う施策

24の施策分野を提示し、その中から特に重要だと思う施策分野に5位までの順位をつけて選んでもらった結果から、区民がどんな施策を重要と考えているかをみていく。

### (1) 順位

第1位に最も多く挙げられた施策は「高齢者介護」(19.5%)で、以下「子育て」(19.0%)、「健康・衛生」(7.9%)、「学校教育」(7.7%)、「防犯」(5.2%)と続き、それ以外は5%以下となっている。

第1位から第5位までの比率の積み上げをみると、「高齢者介護」(54.6%)が5割以上で最も割合が高く、以下「防犯」(38.9%)、「子育て」(38.5%)、「緑・公園・環境・景観」(32.9%)、「健康・衛生」(32.8%)、「学校教育」(32.1%)と続いている。(図Ⅱ-22)



※構成比 5%以下は数値を省略

## (2) 重要スコア

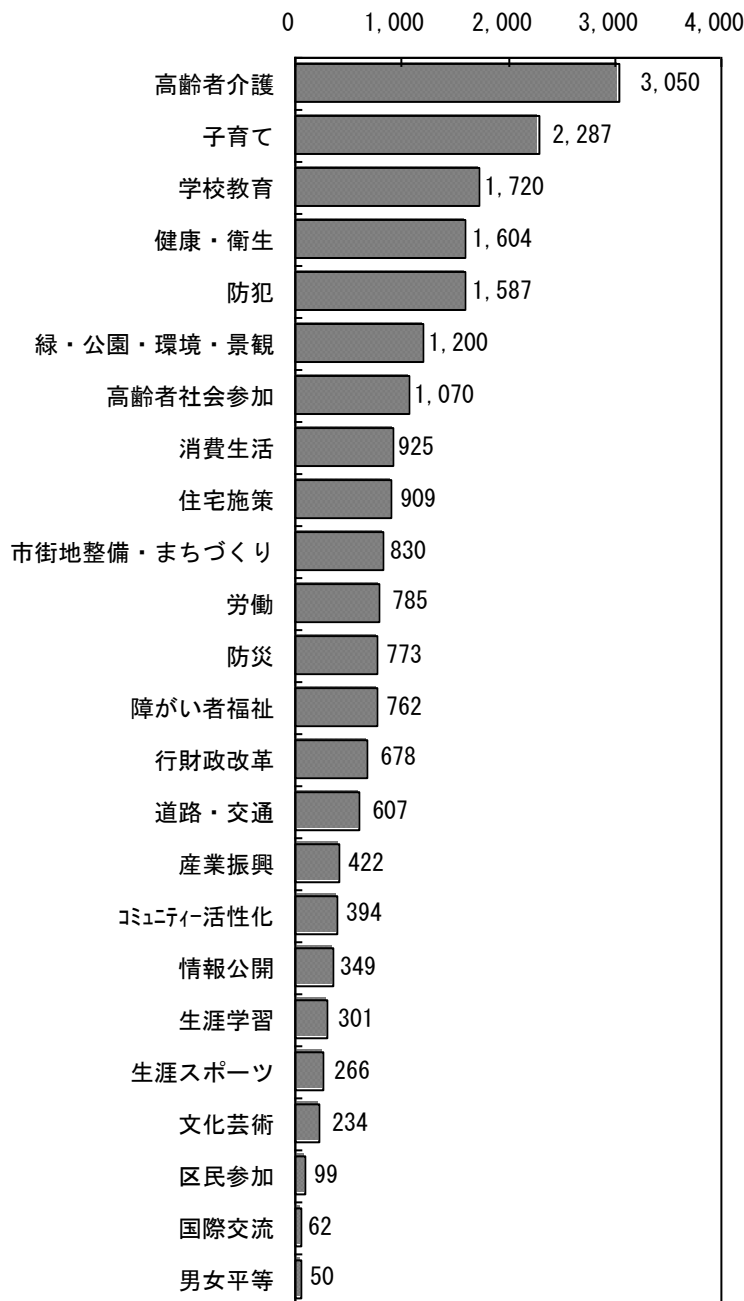
ここでは、区民が重要と考える施策を明確にするために、順位にスコア（得点）を与えてみる。高い順位を得るほど得点が高くなるように傾斜配点を行って重要スコアを算出する。

### 重要スコアの算出方法

「第1位」に“5”、「第2位」に“4”、「第3位」に“3”、「第4位」に“2”、「第5位」に“1”を与え、下式により算出した。

$$\begin{aligned} \text{重要スコア} &= \text{各施策ごとの} \\ &= (\text{第1位の回答者数} \times 5) + (\text{第2位の回答者数} \times 4) + (\text{第3位の回答者数} \times 3) \\ &\quad + (\text{第4位の回答者数} \times 2) + (\text{第5位の回答者数} \times 1) \end{aligned}$$

図Ⅱ-23 施策重要スコア



最も重要スコアが高い施策は、「高齢者介護」の3,050ポイントで、唯一3,000ポイントを超えている。以下「子育て」(2,287ポイント)、「学校教育」(1,720ポイント)、「健康・衛生」(1,604ポイント)、「防犯」(1,587ポイント)、「緑・公園・環境・景観」(1,200ポイント)、「高齢者社会参加」(1,070ポイント)と続き、1,000ポイント以上となっている。(図Ⅱ-23)

次に、24の施策の重要スコアを回答者の属性別にみてる。

① 地域別

地域別にみると、上位2項目までは、どの地域も同じ順位となっているが、3位以降に違いがみられる。(表Ⅱ-1)

表Ⅱ-1 地域別 施策重要スコア

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		高齢者介護 3,050	子育て 2,287	学校教育 1,720	健康・衛生 1,604	防犯 1,587
地域別	板橋地域	高齢者介護 698	子育て 478	健康・衛生 382	学校教育 378	防犯 343
	常盤台地域	高齢者介護 474	子育て 302	防犯 292	健康・衛生 248	学校教育 221
	志村地域	高齢者介護 679	子育て 508	学校教育 391	防犯 356	健康・衛生 351
	赤塚地域	高齢者介護 633	子育て 541	学校教育 414	防犯 307	健康・衛生 302
	高島平地域	高齢者介護 545	子育て 431	健康・衛生 307	学校教育 299	防犯 270

② 性別

性別にみると、男女とも、上位2項目までは同じ順位となっているが、3位以降に違いがみられ、男性は3位「防犯」、4位「健康・衛生」、5位「学校教育」、女性は3位「学校教育」、4位「健康・衛生」、5位「防犯」となっている。(表Ⅱ-2)

表Ⅱ-2 性別 施策重要スコア

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		高齢者介護 3,050	子育て 2,287	学校教育 1,720	健康・衛生 1,604	防犯 1,587
性別	男性	高齢者介護 1,245	子育て 971	防犯 720	健康・衛生 683	学校教育 663
	女性	高齢者介護 1,763	子育て 1,302	学校教育 1,038	健康・衛生 905	防犯 855

③ 年齢別

年齢別にみると、20代で5位に「緑・公園・環境・景観」、60代、70歳以上の上位5項目に「高齢者社会参加」が入っていることが特徴的である。(表Ⅱ-3)

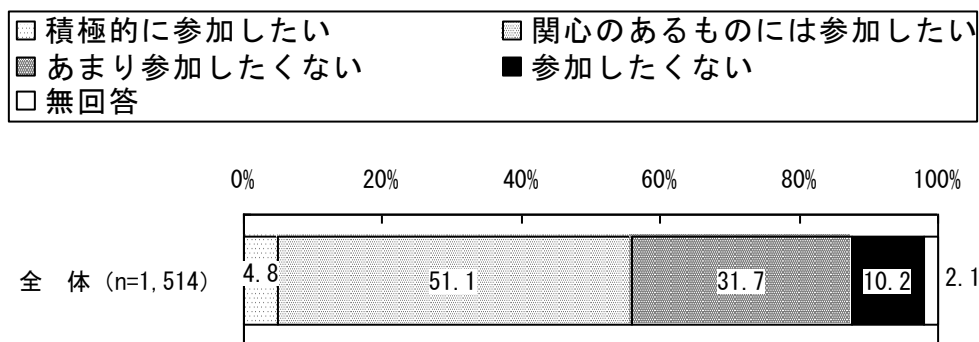
表Ⅱ-3 年齢別 施策重要スコア

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		高齢者介護 3,050	子育て 2,287	学校教育 1,720	健康・衛生 1,604	防犯 1,587
年齢別	20代	子育て 287	高齢者介護 200	防犯 179	学校教育 162	緑・公園・ 環境・景観 159
	30代	子育て 728	学校教育 442	高齢者介護 363	防犯 304	健康・衛生 299
	40代	高齢者介護 399	子育て 371	学校教育 352	防犯 259	健康・衛生 220
	50代	高齢者介護 512	防犯 284	健康・衛生 278	子育て 270	学校教育 218
	60代	高齢者介護 373	子育て 213	高齢者社会 参加 157	健康・衛生 148	学校教育 146
	70歳以上	高齢者介護 756	健康・衛生 330	学校教育 296	防犯 280	高齢者社会 参加 251

## 6 地域活動への参加

住んでいる地域の活動（自ら考え課題の解決に取り組む活動）への参加意向について、「関心のあるものには参加したい」（51.1%）、「積極的に参加したい」（4.8%）を合計した『参加したい』比率は55.9%となっている。（図Ⅱ-24）

図Ⅱ-24 地域活動への参加

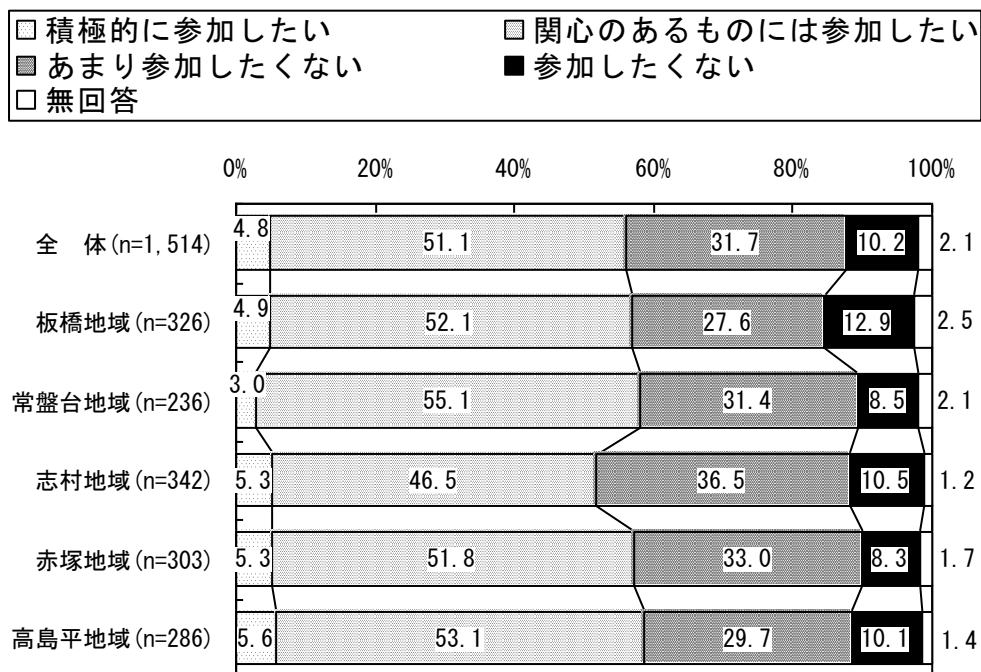


### (1) 地域活動への参加と属性との関連

#### ① 地域別

地域活動への参加を地域別にみると、「積極的に参加したい」、「関心のあるものには参加したい」を合計した値は、ほとんどの地域で5割半ばを超えているが、志村地域では51.8%と低くなっている。（図Ⅱ-25）

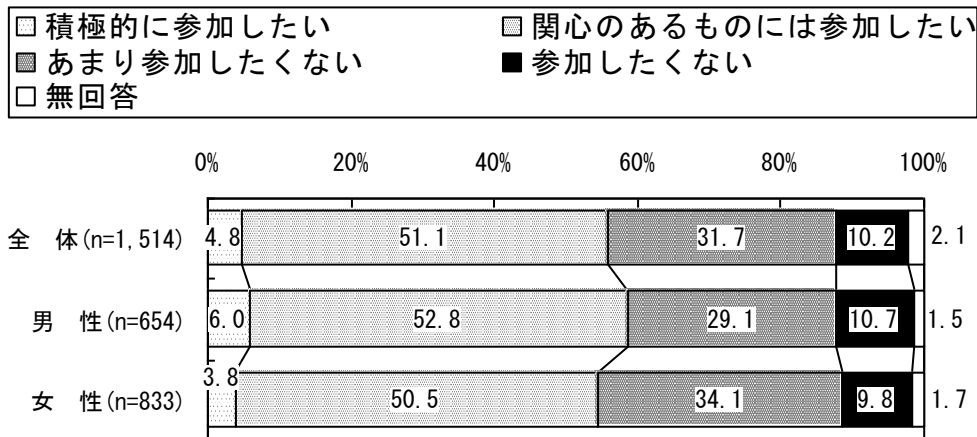
図Ⅱ-25 地域別 地域活動への参加



② 性別

地域活動への参加を性別にみると、「あまり参加したくない」は女性（34.1%）が男性（29.1%）より 5.0 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-26）

図Ⅱ-26 性別 地域活動への参加

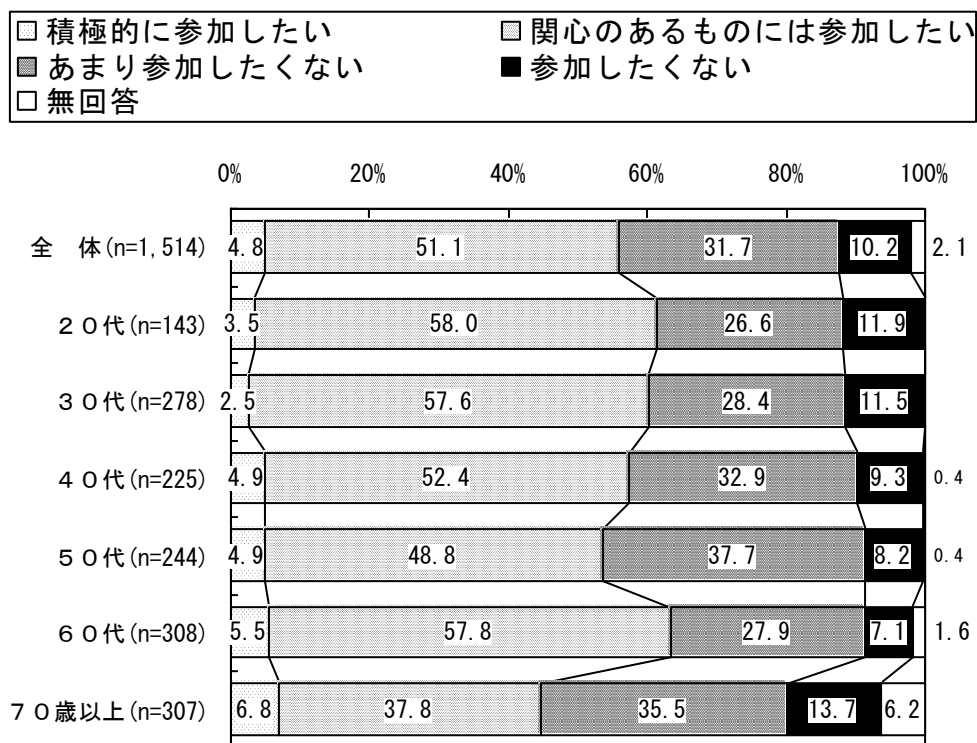


③ 年齢別

地域活動への参加を年齢別にみると、「積極的に参加したい」、「関心のあるものには参加したい」を合計した値は、60代が 63.3%で最も比率が高く、次いで、20代（61.5%）、30代（60.1%）と続き、6割以上となっている。

一方、「参加したくない」、「あまり参加したくない」は70歳以上が 49.2%で最も比率が高くなっている。（図Ⅱ-27）

図Ⅱ-27 年齢別 地域活動への参加

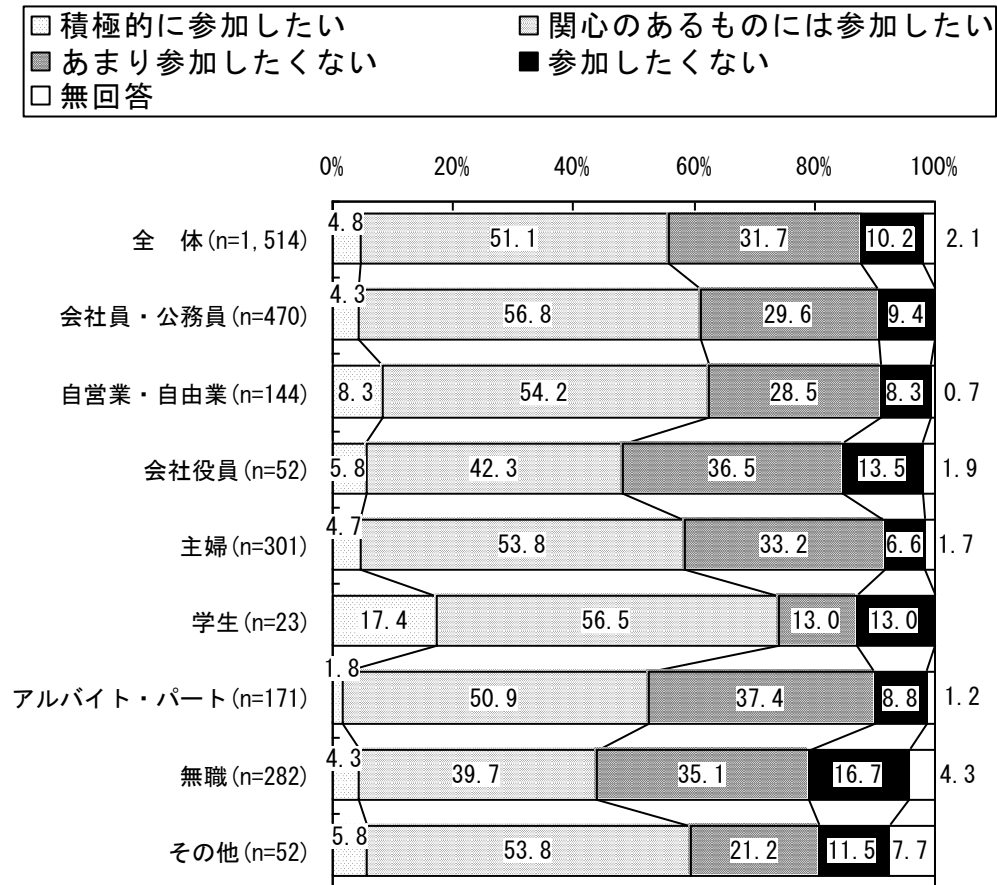


④ 職業別

地域活動への参加を職業別にみると、「積極的に参加したい」、「関心のあるものには参加したい」を合計した値は、学生が73.9%で最も比率が高くなっている。

一方、「参加したくない」、「あまり参加したくない」は無職（51.8%）、会社役員（50.0%）が半数以上で比率が高くなっている。（図Ⅱ-28）

図Ⅱ-28 職業別 地域活動への参加



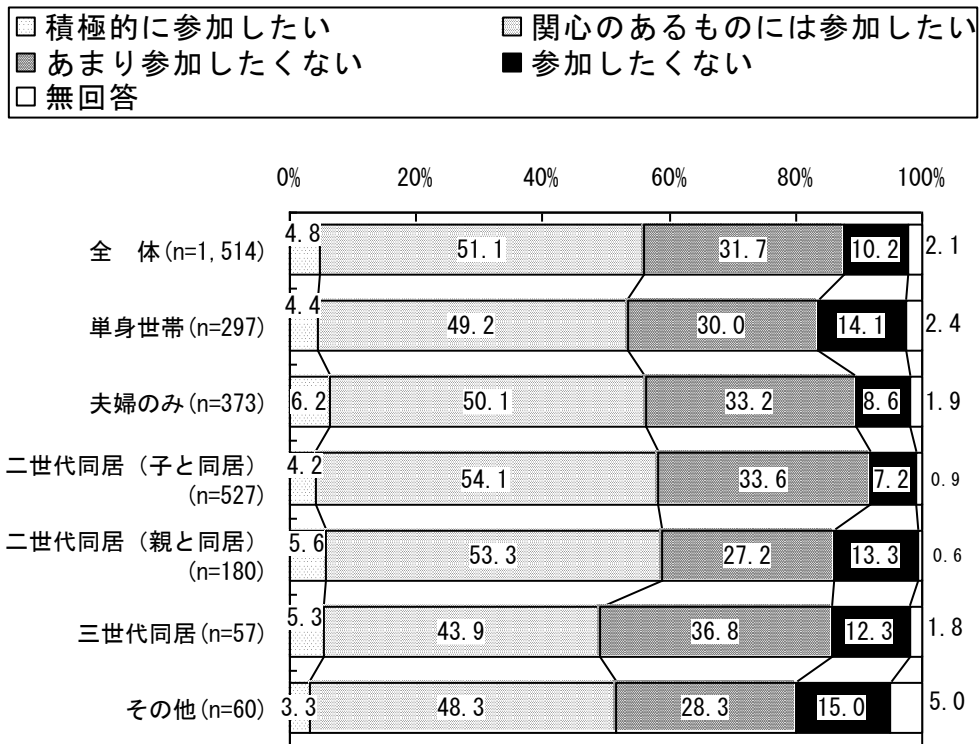


⑤ 家族構成別

地域活動への参加を家族構成別にみると、「積極的に参加したい」、「関心のあるものには参加したい」を合計した値は、二世世代同居（親と同居）が 58.9%、二世世代同居（子と同居）が 58.3%で比率が高くなっている。

一方、「参加したくない」、「あまり参加したくない」は三世世代同居が 49.1%で最も比率が高くなっている。（図Ⅱ－29）

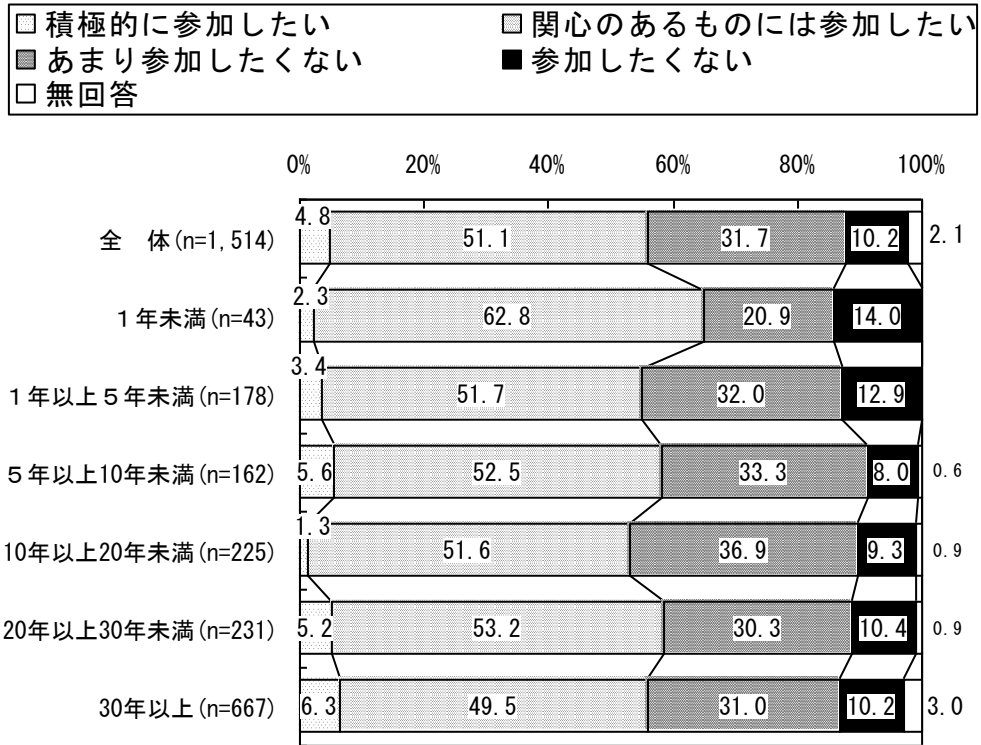
図Ⅱ－29 家族構成別 地域活動への参加



⑥ 居住年数別

地域活動への参加を居住年数別にみると、「積極的に参加したい」、「関心のあるものには参加したい」を合計した値は、1年未満が65.1%で最も比率が高くなっている。(図Ⅱ-30)

図Ⅱ-30 居住年数別 地域活動への参加



## (2) 参加意向のある施策

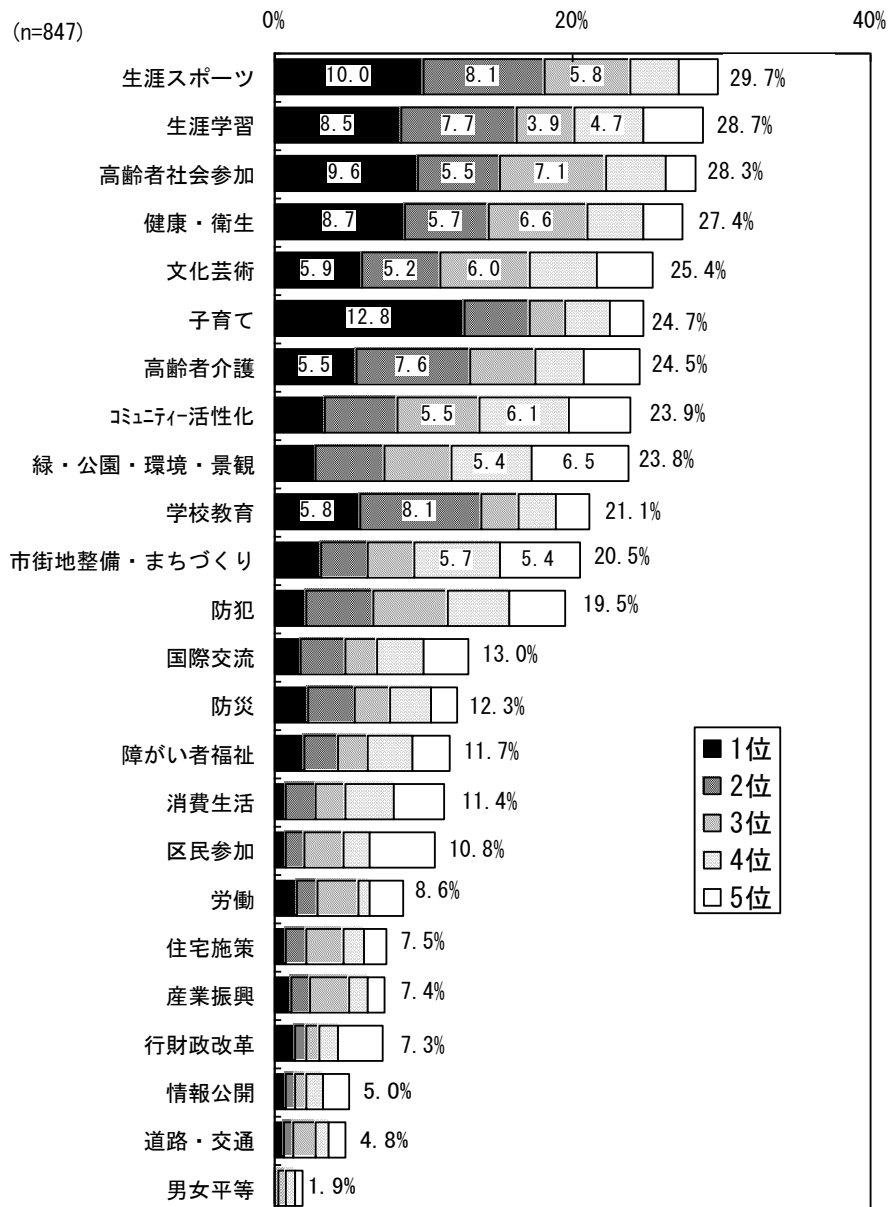
住んでいる地域の活動への参加について、「積極的に参加したい」(4.8%)「関心のあるものには参加したい」(51.1%)と回答した人を対象に24の施策分野を提示し、その中から参加したいと思う施策分野に5位までの順位をつけて選んでもらった結果から、どのような施策分野の地域活動に参加したいと考えているかをみていく。

### ① 順位

第1位に最も多く挙げられた施策は「子育て」(12.8%)で、以下「生涯スポーツ」(10.0%)、「高齢者社会参加」(9.6%)、「健康・衛生」(8.7%)、「生涯学習」(8.5%)と続いている。

第1位から第5位までの比率の積み上げをみると、「生涯スポーツ」(29.7%)、「生涯学習」(28.7%)、「高齢者社会参加」(28.3%)の順で比率が高く、以下「健康・衛生」(27.4%)、「文化芸術」(25.4%)と続いている。(図Ⅱ-31)

図Ⅱ-31 参加意向のある施策

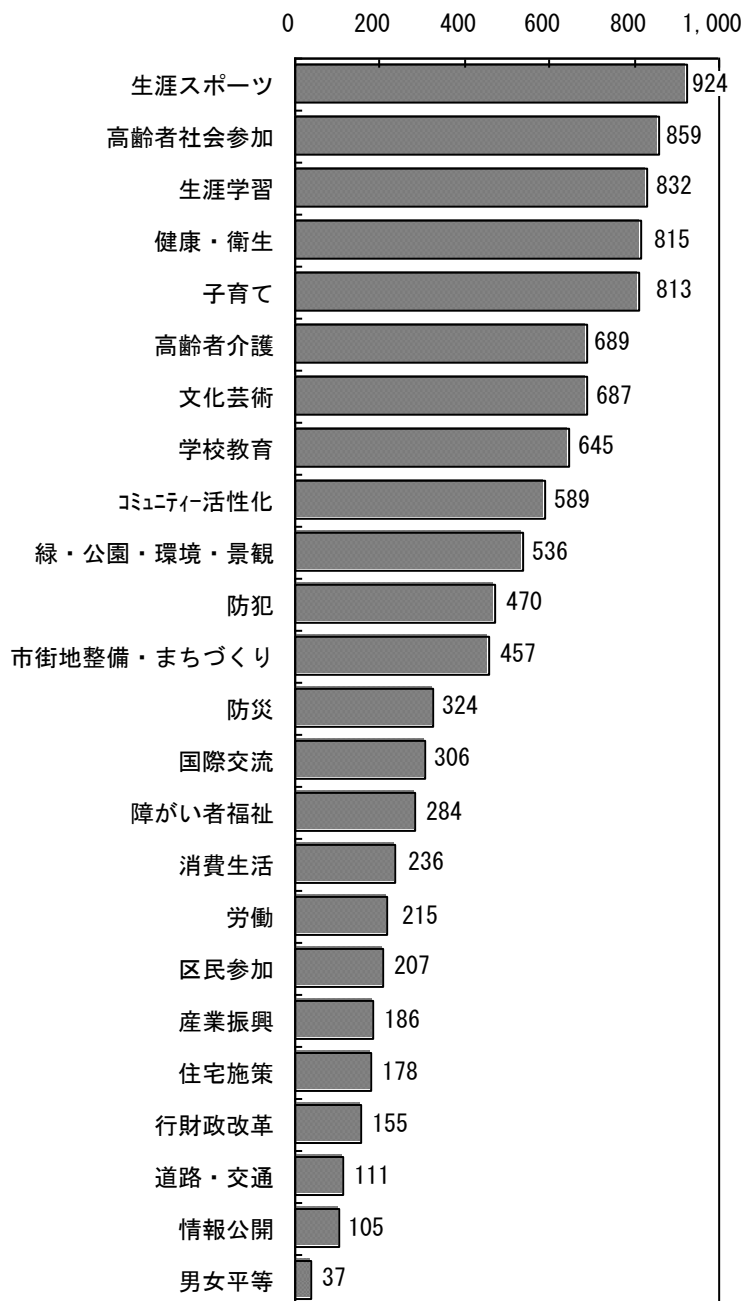


※構成比5%以下は数値を省略

## ② 重要スコア

参加意向のある地域活動の施策分野を明確にするために、順位にスコア（得点）を与えてみる。高い順位を得るほど得点が高くなるように傾斜配点を行って重要スコアを算出する。算出方法は 26 ページと同じ。

図Ⅱ-32 参加意向の重要スコア



最も重要スコアが高い参加意向のある施策は、「生涯スポーツ」の 924 ポイントで、以下「高齢者社会参加」（859 ポイント）、「生涯学習」（832 ポイント）、「健康・衛生」（815 ポイント）、「子育て」（813 ポイント）と続き、800 ポイントを超えている。（図Ⅱ-32）

## ア 地域別

地域別にみると、板橋地域で「高齢者介護」、志村地域で「コミュニティー活性化」、赤塚地域で「学校教育」が上位に入っていることが特徴的である。(表Ⅱ-4)

表Ⅱ-4 地域別 参加意向の重要スコア

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		生涯スポーツ 924	高齢者社会参加 859	生涯学習 832	健康・衛生 815	子育て 813
地域別	板橋地域	生涯スポーツ 211	高齢者社会参加 211	高齢者介護 190	子育て 174	健康・衛生 174
	常盤台地域	高齢者社会参加 129	生涯スポーツ 126	健康・衛生 124	生涯学習 124	子育て 111
	志村地域	生涯スポーツ 230	生涯学習 206	高齢者社会参加 187	健康・衛生 164	コミュニティー活性化 149
	赤塚地域	子育て 194	生涯スポーツ 186	健康・衛生 182	生涯学習 182	学校教育 156
	高島平地域	高齢者社会参加 195	子育て 185	生涯スポーツ 166	健康・衛生 161	生涯学習 147

## イ 性別

性別にみると、男性は1位に「生涯スポーツ」、2位に「高齢者社会参加」、女性は1位に「子育て」、2位に「生涯学習」となっており、順位に違いがみられる。(表Ⅱ-5)

表Ⅱ-5 性別 参加意向の重要スコア

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		生涯スポーツ 924	高齢者社会参加 859	生涯学習 832	健康・衛生 815	子育て 813
性別	男性	生涯スポーツ 504	高齢者社会参加 382	健康・衛生 335	防犯 314	生涯学習 293
	女性	子育て 529	生涯学習 525	健康・衛生 475	高齢者社会参加 472	文化芸術 428

## ウ 年齢別

年齢別にみると、40代の1位と30代の2位に「学校教育」が入っていること、20代は他の年齢に比べ、「文化芸術」、「緑・公園・環境・景観」、「高齢者介護」など全体で上位5項目に入っていない施策が挙げられていることが特徴的である。(表Ⅱ-6)

表Ⅱ-6 年齢別 参加意向の重要スコア

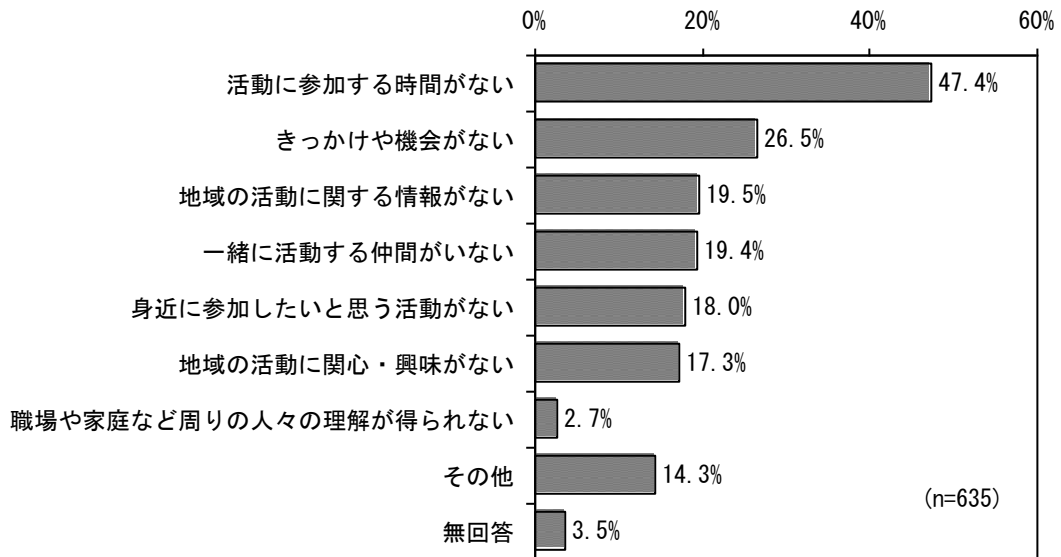
		1位	2位	3位	4位	5位
全体		生涯スポーツ 924	高齢者社会 参加 859	生涯学習 832	健康・衛生 815	子育て 813
年齢別	20代	子育て 135	文化芸術 127	緑・公園・ 環境・景観 99	高齢者介護 82	生涯スポーツ 81
	30代	子育て 392	学校教育 228	健康・衛生 132	生涯学習 128	文化芸術 125
	40代	学校教育 154	生涯スポーツ 136	子育て 132	健康・衛生 132	生涯学習 122
	50代	生涯スポーツ 204	生涯学習 183	健康・衛生 180	高齢者社会 参加 121	コミュニティー 活性化 121
	60代	高齢者社会 参加 221	生涯スポーツ 119	生涯学習 108	健康・衛生 93	文化芸術 82
	70歳以上	高齢者社会 参加 208	生涯学習 136	生涯スポーツ 125	健康・衛生 122	文化芸術 93

### (3) 参加したくない理由

住んでいる地域の活動に参加したくないと回答した 635 人（「あまり参加したくない」480 人、「参加したくない」155 人）に、理由を尋ねた。

「活動に参加する時間がない」が 47.4%で最も比率が高く、次いで「きっかけや機会がない」（26.5%）と続いている。（図Ⅱ-33）

図Ⅱ-33 参加したくない理由



#### ① 参加したくない理由と属性との関連

##### ア 地域別

地域別にみると、赤塚地域、常盤台地域は「地域の活動に関する情報がない」が 23.2%、21.3%で比率が高くなっている。（表Ⅱ-7）

表Ⅱ-7 地域別 参加したくない理由

		n	が活 動に 参加 する 時間	なき いつ かけ や機 会が	情地 報域 がの 活動 に関 する	が一 緒に ない 活動 する 仲間	思身 う近 う活 動に 参加 した いと	興地 味域 がの 活動 に関 心・	得周 られ ない 人 家 庭 の 理 解 が	そ の 他	(%) 無 回 答
全 体		635	47.4	26.5	19.5	19.4	18.0	17.3	2.7	14.3	3.5
居 住 地 域 別	板橋地域	132	47.0	23.5	15.9	16.7	10.6	20.5	2.3	13.6	5.3
	常盤台地域	94	54.3	25.5	21.3	18.1	20.2	18.1	2.1	10.6	3.2
	志村地域	161	46.6	25.5	19.3	18.6	17.4	14.3	3.7	18.0	3.1
	赤塚地域	125	45.6	28.0	23.2	17.6	21.6	16.0	3.2	15.2	1.6
	高島平地域	114	48.2	28.9	17.5	24.6	20.2	19.3	1.8	12.3	4.4

は、最も比率が高かった項目

## イ 性別

性別にみると、女性は男性より「きっかけや機会がない」(3.9ポイント差)、「一緒に活動する仲間がいない」(4.4ポイント差)の比率が高くなっている。逆に、男性は女性より「身近に参加したいと思う活動がない」(3.3ポイント差)、「地域の活動に関心・興味がない」(4.2ポイント差)の比率が高くなっている。(表Ⅱ-8)

表Ⅱ-8 性別 参加したくない理由

		n	が活動に 参加する時間	な きっかけ や機会が	情 報が ない	地 域の 活動に 関する	が 一 緒に 活動 する 仲間	思 う 近 くに 参加 したい と	興 味 が ない	地 域 の 活動 に関 心・	得 ら れ な い	周 り の 人 々 の 理 解 が	職 場 や 家 庭 な ど	そ の 他	無 回 答
全 体		635	47.4	26.5	19.5	19.4	18.0	17.3	2.7	14.3	3.5				
性 別	男性	260	48.8	24.2	19.6	16.9	20.0	20.0	1.9	14.6	3.5				
	女性	366	47.5	28.1	19.4	21.3	16.7	15.8	3.3	13.4	13.0				

は、最も比率が高かった項目

## ウ 年齢別

年齢別にみると、20代では「きっかけや機会がない」(50.9%)、「地域の活動に関する情報がない」(40.0%)の比率が他の年齢より大幅に高くなっている。(表Ⅱ-9)

表Ⅱ-9 年齢別 参加したくない理由

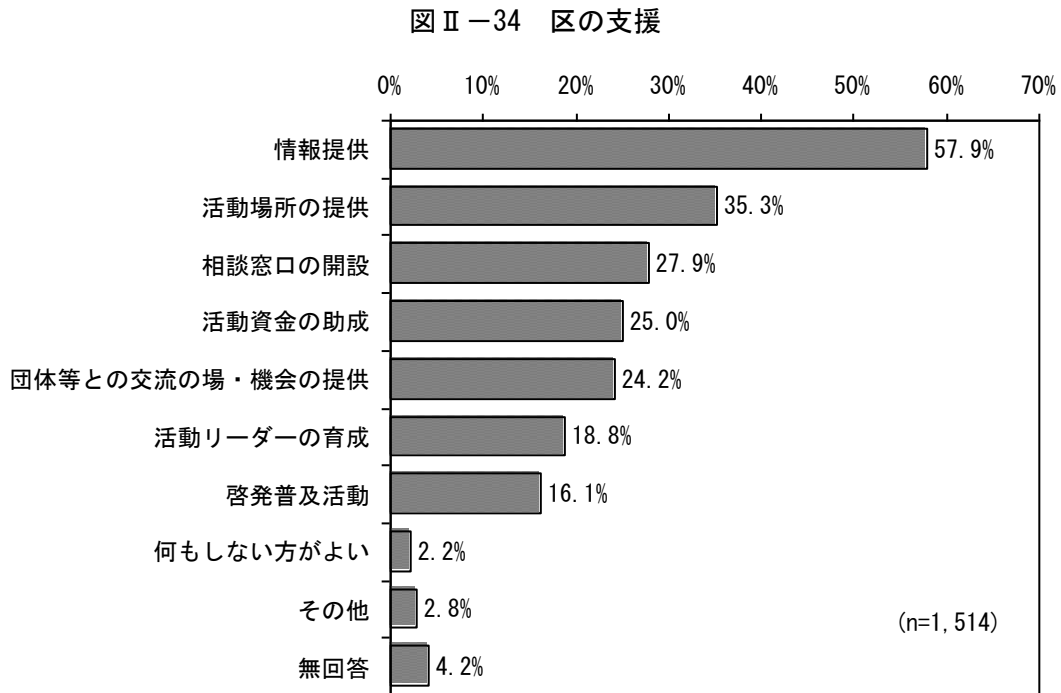
		n	が活動に 参加する時間	な きっかけ や機会が	情 報が ない	地 域の 活動に 関する	が 一 緒に 活動 する 仲間	思 う 近 くに 参加 したい と	興 味 が ない	地 域 の 活動 に関 心・	得 ら れ な い	周 り の 人 々 の 理 解 が	職 場 や 家 庭 な ど	そ の 他	無 回 答
全 体		635	47.4	26.5	19.5	19.4	18.0	17.3	2.7	14.3	3.5				
年 齢 別	20代	55	52.7	50.9	40.0	29.1	25.5	27.3	-	5.5	-				
	30代	111	60.4	27.0	19.8	18.0	13.5	19.8	2.7	9.0	0.9				
	40代	95	73.7	26.3	15.8	17.9	22.1	12.6	7.4	5.3	-				
	50代	112	60.7	26.8	22.3	18.8	18.8	16.1	2.7	8.0	1.8				
	60代	108	39.8	26.9	18.5	21.3	25.0	17.6	2.8	7.4	6.5				
	70歳以上	151	15.9	16.6	13.2	17.2	10.6	15.2	0.7	36.4	7.9				

は、最も比率が高かった項目



(4) 区の支援

区が行うべき支援について尋ねたところ、回答者の半数以上が「情報提供」(57.9%)と回答しており、以下「活動場所の提供」(35.3%)、「相談窓口の開設」(27.9%)と続いている。(図Ⅱ-34)



① 区の支援と属性との関連

ア 地域別

地域別にみると、高島平地域、常盤台地域では「相談窓口の開設」の比率が3割台と高くなっている。(表Ⅱ-10)

表Ⅱ-10 地域別 区の支援

	n	%									
		情報提供	活動場所の提供	相談窓口の開設	活動資金の助成	団体等との交流の場・機会の提供	活動リーダーの育成	啓発普及活動	何もしない方がよい	その他	無回答
全体	1,514	57.9	35.3	27.9	25.0	24.2	18.8	16.1	2.2	2.8	4.2
居住地域別	板橋地域	53.1	35.0	29.1	25.2	24.8	19.0	14.7	3.7	2.5	6.4
	常盤台地域	62.3	36.9	30.9	24.2	22.9	19.5	16.9	0.8	3.0	2.5
	志村地域	61.7	35.1	27.5	24.3	22.2	17.0	17.0	2.0	3.5	2.0
	赤塚地域	58.4	39.6	22.4	27.4	27.1	18.2	15.2	2.3	2.3	3.3
	高島平地域	55.9	30.8	31.5	24.5	25.2	21.0	16.8	1.7	2.1	4.5

は、最も比率が高かった項目

## イ 性別

性別にみると、女性は男性より「相談窓口の開設」(3.5ポイント差)、「情報提供」(2.6ポイント差)、「活動場所の提供」(2.3ポイント差)では2ポイント以上高くなっている。(表Ⅱ-11)

表Ⅱ-11 性別 区の支援

		n	情報提供	活動場所の提供	相談窓口の開設	活動資金の助成	団体等との交流の場・ 機会の提供	活動リーダーの育成	啓発普及活動	何もしない方がよい	その他	無回答
全体		1,514	57.9	35.3	27.9	25.0	24.2	18.8	16.1	2.2	2.8	4.2
性別	男性	654	57.2	34.3	26.0	26.0	24.3	17.9	17.4	2.9	3.1	3.8
	女性	833	59.8	36.6	29.5	24.7	24.8	19.3	15.4	1.7	2.3	3.5

は、最も比率が高かった項目

## ウ 年齢別

年齢別にみると、20代、40代では「活動場所の提供」が4割台と比率が高くなっている。(表Ⅱ-12)

表Ⅱ-12 年齢別 区の支援

		n	情報提供	活動場所の提供	相談窓口の開設	活動資金の助成	団体等との交流の場・ 機会の提供	活動リーダーの育成	啓発普及活動	何もしない方がよい	その他	無回答
全体		1,514	57.9	35.3	27.9	25.0	24.2	18.8	16.1	2.2	2.8	4.2
年齢別	20代	143	64.3	45.5	19.6	32.2	30.1	19.6	16.1	4.2	1.4	-
	30代	278	62.6	34.9	27.3	32.0	28.4	15.8	14.7	1.4	1.4	1.1
	40代	225	58.2	40.0	30.7	29.3	23.6	23.1	19.1	2.2	2.2	0.9
	50代	244	65.2	35.7	28.7	24.2	25.8	19.7	21.3	2.0	2.0	1.2
	60代	308	63.3	36.7	28.6	22.7	21.8	20.1	13.3	1.9	2.6	3.9
	70歳以上	307	41.0	26.4	29.6	16.0	20.2	16.6	14.0	2.3	5.2	12.1

は、最も比率が高かった項目